

## 結碧沖繩

第70号

編集・発行



社会福祉法人  
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804  
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1  
TEL: 098-884-3173(代) FAX: 098-882-5688

mail: o.fukusi@okinawa-j.jp HP: http://www.okinawa-j.jp/



宮古厚生園においてICTを活用している様子(詳細は2ページ上段に掲載)



理事長新年度あいさつ

理事長  
金城 敏彦  
きんじょう としひこ

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。当事業団の事業運営につきまして、日頃よりご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、沖縄県社会福祉事業団は今年で設立44年、自主経営11年目を迎えますが、「利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設(法人)を目指します。」の経営理念の基、長年にわたって培ってきたノウハウや豊富な人材を活用し、社会福祉諸制度の変革や事業団を取り巻く社会情勢変化に対して、鋭意経営改善に取り組み、全職員が日々の業務を誠実に確実に実行することで沖縄県の社会福祉に貢献して参りました。

このような中、社会福祉法の一部を改正する法律が可決成立しました。主な内容は「法人組織のガバナンスの強化」「財務規律の強化」「経営情報の公開」「地域における公益的な取り組み」であります。この改正の内容を前向きにとらえ真の公益法人としての役割を果たし、地域社会の福祉の拠点となるべき努力をしていく決意であります。

今年度は、当事業団においても5カ年経営計画の4年目にあたり、経営理念と経営方針を実現するために、社会福祉法人として福祉事業を通して地域社会に貢献できる人材を育成し、地域に開かれた法人であるために、「人材育成に関する要綱」を策定し ①人事考課制度 ②研修制度 ③キャリアパス制度 ④職能等級制度を明確にし、職員が成長する環境の整備を行い、総合的な人材マネジメントシステムの取り組みを開始致します。

このような取り組みにより、職員が安心して業務に専念することができ、スキルアップが自信に繋がり、ひいては利用者サービスの質の向上に繋がるものと考えております。

今後も、変化をおそれず、より一層地域にとってなくてはならない存在となるよう、「沖縄県社会福祉事業団」だからできることを念頭に置き、その使命を果たして参りたいと考えておりますので、皆様には、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ICTを活用した介護サービスの産業化を通じたまちづくり  
事業の概要と取り組み状況について



養護・特別養護老人ホーム  
宮古厚生園  
生活支援課長 川根 直美  
かわね なおみ

当園では、平成27年12月から国の地方創生関連補正予算事業「まち・ひと・しごと創生総合戦略」による宮古島市事業「ICTを活用した介護サービス事業」の産業化を通じたまちづくり事業を受託し、慶応大学が開発した「情報把握システム」を活用し介護職員の気づきを促す取り組みを行っています。

「情報把握システム」は、既存の介護記録に加え、入所者の方の「状態」を更に細かく把握・記録するため、職員がスマートフォンを携帯して日々の細かな「気づき」を記録することで、入所者の「状態」の変化をデータで可視化し、介護の質の向上及び職員のスキル共有・向上の実現が目指したものです。

1月12日から実際に職員が端末を持って利用者の様子、職員の働きかけ、利用者の行動、利用者への洞察等を21項目でデータ入力を行った結果、入力期間が短い中で集積されたデータをフィードバック会議で分析・洗い出し



1月23日に宮古島市内で開催したシンポジウムの様子

してみると入力力が不穏な利用者に集中しています。入力項目や場所に偏りがある等の、職員個々の支援の視点がデータとして可視化されたことは驚きでした。  
同じ利用者を見ている職員の間でも、同じ視点が違うこと、「気づく」ためには意識して利用者寄り添っていくことが必要であることも見えてきました。  
さらに介護のサービスの質の向上に向け「状態把握システム」のビッグデータを活用して、職員一人一人が利用者などのようなサービスを提供すべきなのかを分析把握・共有できるようにしていきたいと思えます。

実践活動発表会

実践発表を終えて



あけぼの学園  
就労継続支援B型事業  
職業指導員 宮國 辰也  
みやくに たつや

- 平成28年1月22日に浦添市産業振興センター結の街にて、当事業団の実践活動発表会を開催いたしました。各施設の日頃の実践成果を報告すると共に、職員の創意工夫力を高める事を目的とし、次のとおり発表が行われました。
- ①「沖縄療育園における理学療法士の役割」  
医療型障害児入所施設 療養介護事業所 沖縄療育園
  - ②「就労継続支援B型の取り組みとモチベーションを上げよう」  
あけぼの学園 就労継続支援B型事業
  - ③「笑顔で楽しめる余暇活動を目指して」  
養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園
  - ④「宮古厚生園 口腔ケアの取り組みと多職種のアプローチで改善する口腔機能と生活」  
養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園



発表へ向けての取り組みでは、テーマの設定から始まり、就労活動内容の見直しや利用者一人ひとりの成長や個性の再確認・再発見など充実した実践活動でした。原稿のまとめでは、何度も修正や訂正で原稿締切まで間に合うのだろうかと焦りもしましたが発表の練習やプロジェクトの操作等取組メンバーとの連携や協力のおかげで発表当日を迎えることができました。  
実践活動を終えて「緊張した」「これで終えた」という言葉がすぐに思い浮かびました。発表内容に少々不安もありましたがアンケートの結果を見る限り活動内容を評価していただき安心しました。  
また、他施設の発表を通し普段なかなか話を聞くことができない利用者支援の仕方やサービス改善に努力をしていることが伺え勉強になりました。

地域でゆいまーる (支えあい)

第2回 沖縄療育園 地域貢献活動 『生活習慣病と摂食機能について』



医療型障害児入所施設 沖縄療育園 育成課長 花城 裕康 (はなしろ ひろやす)

今日、福祉に求められているニーズは多種多様化しております。当園では、地域貢献活動の一環として、地域出前講座を開催いたしました。

開催内容としまして、平成28年2月28日(日)13時から16時に於いて浦添市字経塚にあります、ゆいまーるセンターにて経塚自治会の皆様向けに、当園の浜田幸子(管理栄養士)と稲福沙織(言語聴覚士)を講師として『生活習慣病の予防と摂食機能』について講話を催しました。講話以外には、調理実習も行い、参加者も興



味・関心をもった講話会だったと感じました。

今後も活動を継続し、誰もが住み慣れた地域で心身共に安心して生活できる一助になることを目的とした地域貢献活動としていきたいと思えます。また、活動を継続していくなかで、地域の皆様及び関係団体などを含めた方々との輪を築いていく礎となっていくことを期待しています。

介護予防教室



養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園 理学療法士 平良 智也 (たいら ともや)

宮古厚生園では、「施設で培った専門的スキルや知識」を地域の高齢者に提供することで地域福祉の向上に寄与する事を目的として毎年介護教室を開催しています。今回は腰原地区の高齢者や婦人会を対象に地区の公民館で開催しました。(1月31日実施)



介護教室では介護士・管理栄養士・理学療法士・介護支援専門員など多職種で構成されたメンバーで高齢者が介護に頼ることのないよう、日ごろから身体を動かし機能維持を図ることの重要性を訴えてきました。

具体的内容としては、介護職員による反復唾液嚥下テスト(30秒間で唾液を何度飲むか)の体験、管理栄養士による「ソフト食」の試食体験、理学療法士による腰痛・膝痛予防体操のレクチャー、介護支援専門員による介護保険制度に関するアドバイスなど、多岐に渡り専門的な事を伝えてきました。なかでも、特に好評であったのが、デイサービス職員による「健康レク体操」でありました。

2チームに分かれてチームごとに並び互いに向かい合い、足で輪投げを引っ掛け、隣の参加者に伝搬するなど多彩な競争方式のゲームを行い、参加者たちは「皆でワイワイ楽しめる」「勝負事はいくつになってもドキドキする」など楽しそうに取り組んでいました。

宮古島でも高齢化が進み「介護予防」が注目されています。大切な事は早期対応であり、身体の機能が徐々に弱っている高齢者を早期に見出し、介護サービスを利用する前の予防的アプローチが必要です。その為には、私達、福祉に携わる人たちが職場内に留まらず、地域に出て介護予防を訴える事が重要であると考えます。これからも宮古厚生園では多職種連



携を図り、積極的に地域に根ざした介護予防について取り組んでいきたいと思えます。



# 施設だより



## 生年者頌状及び記念品贈呈式

養護・特別養護老人ホーム  
八重山厚生園  
生活相談員 古見 嘉浩

石垣市では、旧正月の元旦にトシ  
ビー生年者九七歳カジマヤー45名と  
八五歳264名の対象者に市民会館や各  
自宅を市長が訪れ頌状と記念品を授  
与していますが、八重山厚生園では  
2月10日（旧暦1月3日）にカジマ  
ヤー3人と八五歳の生年者5人に頌  
状及び記念品贈呈式を行いました。  
式では園長の挨拶の後、市長の代  
理で知念福祉部長から生年者一人ひとりに頌状及び記念品が手渡されま  
した。また子孫繁栄や、陰徳（人知れ  
ず行う善行）を積めばよい報い（長寿）  
となつて現れてくると詠う「あやか  
り節」（八重山民謡）の音色に合わせ、  
会場の全員に盃がふるまわれまし  
た。  
式終了後は、花束を手に家族と記  
念写真を撮り皆さん笑顔の一日でし  
た。



## しんかめチャーム会（ボランティア）との交流について

救護施設 よみたん救護園  
管理課長 名嘉 克文

平成26年度の全面改築に伴い、敷  
地が整備され、設備も整ったため、  
園長が全面改築へのお礼を兼ねて、  
読谷村社協及び近隣への挨拶の際、  
地域との交流等をお願いしました。  
その甲斐あって、11月11日（水）  
の午後、読谷村内で活動されている  
ボランティアグループ「しんかめ  
チャーム会」会長以下十数名が初めて  
来園され、グラウンドゴルフを通して  
当園との交流を持ちました。当日は  
いくつかの混成チームに分かれ、2  
時間程度、当園利用者と会の方々と  
楽しく親睦を図りました。  
今後とも地域のボランティア等を積  
極的に受け入れ、地域との絆を更に  
深めていきたいと思っております。



## 地域交流グラウンドゴルフ大会に参加して

養護・特別養護老人ホーム  
名護厚生園  
生活相談員 平良 リカ

地域の方々を利用者の交流を目的と  
した「グラウンドゴルフ大会」が、  
平成28年2月19日名護厚生園の園庭に  
て催されました。  
宮里区老人会の皆さまをお招きし利  
用者との混合チームを編成して、6グ  
ループに分かれ競技を行いました。開  
始直後はお互い遠慮される場面も見ら  
れましたが、競技が進むにつれ積極的  
に声を掛け合い、ホールインワンが出  
ると自分の事のように喜ばれる姿も見  
られました。競技には参加されなかつ  
た利用者も老人会の皆さまと談笑され  
普段とは違う表情が見られました。  
利用者の「楽しかった」「次はい  
つかね」という声を聞くと、地域の  
皆さまとの繋がりに感謝し、今後も地  
域の皆さま  
と利用者の  
親睦を深め  
る機会をも  
ち園生活に  
生きがい  
もてるよう  
支援してい  
きたいと思  
います。



## クリスマス会を終えて

児童養護施設 漲水学園  
保育士 荷川取 律子

去った12月、クリスマス会を開きま  
した。  
地域の方々から毎年多くのプレゼン  
トがあるため、子ども達が大変楽し  
みに行っている行事の一つです。プレゼン  
トとして、ピザ・チキン・ケーキ・お  
菓子・衣類・おもちゃ等を頂きました。  
楽しみにしている行事のため、児童  
自ら余興の出し物を考えチームに分か  
れての練習にも熱心に取り組み、本番  
ではそれぞれのチームが上手に余興披  
露し大いに盛り上がりました。  
職員も余興も披露され、児童に負け  
ず劣らず見事な脚線美を披露した錯覚  
ダンスを踊り、児童達の熱い視線を貰  
いました。  
クリスマス会行事を通し子供たちの  
成長を見守  
る事がで  
き、支援し  
てくださる  
多くの地域  
の方々へ、  
改めて感謝  
したいと思  
います。



# ヘルパーステーションほくれい開設



ヘルパーステーション  
ほくれい  
サービス提供者  
あはれん  
阿波連 園江  
そのえ

平成28年1月、待望の訪問ヘルパー事業（指定居宅介護事業所ヘルパーステーションほくれい）が北嶺学園中庭にオープンしました。  
建物内には、相談支援事業所ほくれいも同時に施設内から引越し併設しています。新年より新規事業を開始することになりました。これまでに入所施設勤務のため利用者宅に伺ったの支援は初めてであり、実際の現場で試行錯誤しながら、これまでの介護員としての経験を活かし、適切な支援が提供出来たらと考えています。

私たちの支援のモットーとして利用者が、自分の家や住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活、生きがいのある生活が送れるようお手伝い致します。お宅を訪問して、入浴・排泄・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、また、屋外での移動が一人では困難な場合外出に付き添い、移動中や目的地において、移動の介護・排泄・食事の介護・代筆・代読・危険を回避するための支援などを

います。ご自身で出来ることは見守り、不十分なところをお手伝い致します。

職員配置として現在は、サービス提供責任者兼介護員1名、常勤介護員2名体制で臨んでいます。利用件数が増えていくと登録ヘルパーさんを採用して希望に応えていきます。最後に、まだスタートしたばかりの「指定居宅介護事業所ヘルパーステーションほくれい」でございますが、利用者のニーズを受け止め、気持ちに寄り添いこれからの人生に希望の持てる支援が出来るよう精いっぱい頑張ります。宜しくお願ひします。



## 職員の語らい

### 模合旅行



救護施設  
いしみな救護園  
うえち  
介護員 上地 博輝  
ひろき

私は、模合仲間4年に1回旅行に行きます。模合は、20年余り続いています。

模合旅行は草津旅行に始まり、九州一周、台湾、大阪、京都に行ってきました。男10名以上で行くのでとても楽しく、ハプニングもありました。

模合の仲間は、高校の同級生で構成されています。昔は今と違って、毎日のように遊んでいた仲間が、今では月1回のペースですが集まらなくなっています。でも、これからも付き合う仲間を大切にしていきたいと思ひます。



### 休日の過ごし方



養護・特別養護老人ホーム  
具志川厚生園  
介護員 上原 大輔  
だいすけ

みなさん、こんにちは！上原大輔です。最近の休日の過ごし方は、朝ランニングで身体を動かして汗をかいた後に美味しいものを食べに行くことです。食べること

が大好きな私が特に好きな食べ物は沖縄そばです。

美味しいお店があるよと聞けば北は名護や本部から南は糸満など、どこでも食べに行きます。そばの味はどこでも一緒！と思われがちですが、地域によって麺の太さ、ダシの味付けが異なりとても興味深いものがあります。皆さんはお勧めのお店ありますか？



### 教えを胸に



障害者支援施設  
北嶺学園  
介護員 濱里 智  
はまざと  
さとし

高校の部活から空手を始めて30年あまり。今まで3名の師匠に付き、今も週に3〜5日道場に通ったり、自主トレを行っています。ある日いつも通り稽古をしていると先生がおっしゃいました。「濱里君、僕は天才ではない。しかしいつか天才が現れるかも知れない。その時の為に僕は確かな技を身に着けないといけないんだよ。」

修業は長い道のりです。目標にしたレベルに達してもそれは次の段階への入り口に過ぎません。日々自分の力不足を感じます。しかしこれからは師匠の言葉を胸に努力していきます。



# 退職者あいさつ



救護施設  
よみたん救護園  
園長 比嘉 憲次  
ひが けんじ

昭和52年7月に賃金職員として事業団事務局に採用されてから40年近く勤め3月末日をもって定年退職を迎えます。

長い年月の間には、実に様々なことがございましたが、多くの尊敬する諸先輩方や同僚各位、良き友に恵まれ鑑みれば充実した日々であったかと懐かしく思い起こされます。

しばらくは休業させていただき、趣味の釣りやゴルフも楽しみながら折を見てボランティア等の活動に微力を注ぎたいと存じます。今日まで支えていただいた皆様方に感謝申し上げ事業団の更なる発展とご活躍を祈念申し上げます。



救護施設  
いしみな救護園  
栄養士 稲福 直子  
いなみく なおこ

桜満開の候いしみな救護園を最後に定年退職を迎える事になりました。昭和53年1月に採用され、38年余事業団の栄養士として利用者様の大事な食事に携わる仕事を経験させていただきました。若干23歳で、よみたん救護園に赴任し、沖縄本島にある事業団全施設7施設をそれぞれの職場で上司、諸先輩、同僚の皆様との良きアドバイスに、支えられ大過なく勤める事ができました。皆様方のご厚情に心より感謝しております。

心に残るのは、利用者様の「おいしかったよ」、「ぜんぶ食べたよ」と言う言葉と共に食欲の無なく、元気の無かった利用者様が食の調整で元気を取り戻したときです。

皆様方のご健康とご多幸、今後の事業団のさらなる発展繁栄を祈念申し上げます。



養護・特別養護老人ホーム  
名護厚生園  
栄養士 山内 久美  
やまうち ひさみ

昭和56年2月に事業団に採用され、よみたん救護園を皮切りに、福祉施設の栄養士として34年余り、食に携わる仕事をしてきました。具志川厚生園、都屋の里、沖縄療育園、いしみな救護園、名護厚生園とそれぞれの施設での勤務は、多くの利用者との出会いがあり、上司や諸先輩、同僚の皆様を支えられ、多くの利用者とのかわりの中で、多くの事を学び、楽しく仕事をすることが出来ました。当時を振り返ってみますと、最初の勤務先でありますよみたん救護園では、事務引き継ぎもないうちに栄養士の業務を手探りしながら、先輩や職員のアドバイスを頂き、無我夢中でスタートしたの思い出します。利用者様の「おいしかったよ」、「今日は私の大好物のカレーさ〜」などの声に、喜びを感じ仕事への生き甲斐にもなりました。名護厚生園を最後に無事定年を迎える事が出来ました。今まで支えて頂いた皆様方にお陰です。有難うございました。最後に事業団のさらなる発展と皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

昭和52年3月、保育士として採用され不安と喜びに胸躍らせた日、あれから早39年光陰矢の如し定年を迎えることになりました。



障害者支援施設・福祉型障害児入所施設  
あけぼの学園  
保育士・児童発達支援  
管理責任者 上地 万智子  
うえち まちこ

漲水学園を皮切りに、宮古厚生園、あけぼの学園で勤務させて頂き、漲水学園では、境遇に負けない明るく、たくましく生きる強さ、頑張る姿には、勇気と感動をもらい、子供たちのよりよい成長を祈りながら、自分自身も共に学び成長出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。

あけぼの学園の児童や利用者の方々には、やさしい笑顔に触れ、一生懸命に頑張る姿に、充実した日々を過ごすことができました。よき上司、先輩、同僚に支えられ心から感謝いたします。

昭和53年5月6日採用となり、沖縄療育園、北嶺学園、具志川厚生園、名護厚生園、うるま婦人寮と約38年を経てきました。



婦人保護施設  
うるま婦人寮  
生活指導員 川門 淳子  
かわかた じゅんこ

沖縄療育園で初めて子供たちに触れたとき、「この子達私が触れたら骨折するんじゃないか?」と不安な気持ちになつたのが昨日のこのように思い出されます。採用当時、諸先輩方が優しく呆れず指導していただいたおかげで今日があると感謝しています。第一段階は卒業しますが、また第二段階、ギアチェンジし直し入所者支援に努めたいと思います。

これからも社会福祉事業団が発展する事を祈念し退職のあいさつとします。



# 退職者あいさつ



医療型障害児入所施設  
沖繩療育園  
介護員 喜瀬 達男  
まさせ たつお

定年退職？まるで他人事のように思っていました。最初は歳月がたつのは早く、ついに私にも順番が回ってきました。  
私が事業団で産声を上げたのは昭和57年でした。最初の配属先は療育園で、その後33年の間に5施設を巡って療育園に戻ってきました。スタートもゴールも療育園です。

採用された時は「沖繩県立」という称号があり沖繩県の委託を受けた施設でしたが平成18年度に事業団は完全民営化となり自主運営を強いられました。その後は今まで以上に質の高いサービスが求められる時代になっていきました。何といたって主役は施設で生活を送る利用者です。質の高いサービスを提供するには職員の意識の向上が求められます。利用者が毎日、快適な生活が送れるよう職員の皆様には、より一層頑張ってもらいたいのです。最後に皆様の健康をお祈り申し上げます。33年間ありがとうございました。



医療型障害児入所施設  
沖繩療育園  
介護員 上原 将弘  
うえはら まさひろ

昭和58年4月にいしみね救護園の寮父として採用され、その後8施設で勤めさせて頂き、33年の歳月が経ちました。

それぞれの職場で上司や先輩、後輩の皆さんの支えがあり今日を迎えることができました。衷心より感謝申し上げます。  
親に育てられた「第一の人生」、家族を支えて勤めた「第二の人生」、やりたいことに打ち込める「第三の人生」という話があります。

私も、家族、友人、隣人を大切にして、シニアライフを満喫したいと思います。

最後に、事業団の発展と、職員が働きやすく、利用者の笑顔も多く引き出すことが出来るプロ集団であることを祈念致します。長い間、ありがとうございました。



医療型障害児入所施設  
沖繩療育園  
介護員 親富祖 宏  
おやふそ ひろし

昭和63年に都屋の里の厨房職員として採用され、厨房業務委託に伴い、まずは生活のため家族のため、介護職に職種変更、浦添から読谷までの勤務を合計16年、台風の中、出勤したり通常屋根にある水タンクが対向車線を転がってきたり、嘉手納基地のフェンスが倒壊、帰りの道が遮断、警察官の指示でUターン、「まーからけーいがひ(どこから帰ればいいの)」状態、ゴールデンウィークは家にたどり着くまで2時間半など過ぎてしまえば数々の出来事が走馬燈のように浮かび、その都度、転勤で知り合う職場の仲間を支えられ幾つもの壁を乗り越え、今日に至る。長くも短くも感じるこの頃、新たな就活のスタートラインに心揺れるこの頃です。



看護・特別看護老人ホーム  
八重山厚生園  
介護員 島袋 あや子  
しまぶくろ あやこ

平成元年4月に事業団に採用され、八重山厚生園厨房に配属となり早27年が過ぎ、定年を迎える事となりました。その当時の厨房職員は、私以外県の職員で、先輩達の仕事や家庭に対する姿勢に感銘を受け、私自身が大きく成長できた場でもありました。それから14年が過ぎ八重山厚生園の新築移転、翌15年には厨房の民間委託に伴い介護員への職種変更をしました。47才からの再スタートは厳しくもあり、諸先輩・同僚からの励まし、ご指導を受けながら毎日を大過なく勤めることができました。そして何よりも利用者の素直な心と垣間見る笑顔に癒され、感謝の気持ちで一杯です。最後になりますが、今後の事業団が時代の波に乗り、発展・進化を遂げますように祈念いたします。ありがとうございました。

## 平成28年度 人事異動

### 事務局

経営対策監 知花 進 (具志川厚生園園長)

経営管理課長(副園長級)

翁長 武己(昇任 事務局経営管理課長)

総務課長 西表 敏克(新規)

### 沖繩療育園

介護課長 宮城 厚子(昇任 沖繩療育園介護員)

### 漲水学園

園長 平良 吉昭(昇任 宮古厚生園副園長)

副園長 奥原 一秀(新規)

### あけぼの学園

園長 平良 吉昭(昇任 宮古厚生園副園長)

### 北嶺学園

管理課長 知念 正剛(新規)

### 都屋の里

園長 儀間 敏光(新規)

管理課長 中村 亜由美(北嶺学園管理課長)

### よみたん救護園

園長 友利 勝政(漲水学園・あけぼの学園園長)

### いしみね救護園

園長 川原 仲壮(新規)

### 具志川厚生園

園長 金城 清安(新規)

### うるま婦人寮

寮長 藤田 勝己(新規)

### 宮古厚生園

副園長 砂川 繁信(漲水学園副園長)

### 八重山厚生園

副園長 仲里 光江

(昇任 八重山厚生園生活支援課長)

# 平成28年度

# 沖縄県社会福祉事業団 事業計画

## 1. 利用者に対する姿勢

(主な内容を記載)

- ① 各施設の管理職は、経営理念等を深く理解し、全職員が同じ方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・ヒヤリング等の機会を積極的に活用し経営理念等の周知を図る。
- ② 各施設は半年毎に倫理綱領自己評価を実施し、倫理委員会で課題を抽出し、課題解決のための対応策を決定し、明確に職員に周知すると共に事務局へ報告する。
- ③ 事務局及び各施設は、前年度に作成した業務標準書を仮運用し運用結果を検証する。
- ④ 宮古厚生園は、地域創生事業の位置づけで法人が宮古島市から受託したICTを活用した事業をとおしてデータに基づく根拠あるサービスを提供しサービスの質の向上を図る。
- ⑤ 具志川厚生園は、沖縄県との調整に基づく養護老人ホーム内の10床を視覚障害者を受け入れるための施設整備を終え次第、受入を開始する。
- ⑥ 石垣市での待機児童の解消と児童福祉の向上に資するため保育事業に参入する。

## 2. 社会に対する姿勢

① 漲水学園は、宮古島市及び関係機関と

連携し地域の生活困窮者世帯児童を対象とした学習支援を実施する。

- ② うるま婦人寮は、県女性相談所と連携しステップハウス運営事業を継続して実施する。
- ③ 事務局は、ホームページで第三者評価結果や各施設に寄せられた苦情・要望等に関する情報を継続し公開する。
- ④ 宮古厚生園は、地域創生事業の取組において使用する利用者状態把握システムを活用し、利用者情報を家族へ積極的に提供する。

## 3. 人材に対する姿勢

- ① 総合的な人材マネジメント体系の構築を目指し平成25年度から開始した取組が前年度でまとまり、今年度は「人事考課・キャリアパス・研修」の3本柱の仮運用を行う。
- ② 事務局及び各施設は、ストレスチェックを実施する。
- ③ 処遇改善加算を活用し、介護員の処遇改善を継続して実施する。
- ④ 事務局は、介護職、看護職、保育職等の確保に向け、コンサルタントを活用する中でホームページの採用部分の刷新を図ると共に、県外に採用窓口を設け職員を確保する。

## 4. マネジメントに対する姿勢

① 実績会議では、管理会計の手法を導入し各事業毎の収入の改善に向ける。

② 施設が所在する圏域での福祉ニーズ・競合する事業所等の基礎的な調査は終えて

いることから、今年度は事務局・施設・コンサルタントが連携し新規事業に関する意思決定を行い、必要に応じ事業計画等を作成する。

③ 介護及び障害施設での加算取得に向け、事務局及び施設では担当者を明確にした徹底取組を継続し諸加算を取得する。

④ 日本財団等の助成団体への働きかけを強

化し、助成金を活用した施設整備に繋げる。

⑤ 各施設の管理者は、制度改正等の動向を把握・分析し、施設内での早期の対応策を協議し、制度変革に対応できる施設方針を自ら確立する姿勢で施設経営に当たる。

⑥ 事務局長及び各施設長は、課題解決に向けて責任を持ち対応する姿勢を職員へ発信する。

平成28年度 資金収支予算書 (単位:千円)

勘定科目		法人全体		
		当年度 予算額 ①	前年度 予算額 ②	増減 ①-②
大区分				
事業活動収支	収入 事業活動収入	4,223,743	4,170,450	53,293
	支出 事業活動支出	4,131,299	4,008,476	122,823
	事業活動資金収支差額	92,444	161,974	△ 69,530
施設整備等収支	収入 施設整備等収入	213,875	602,545	△ 388,670
	支出 施設整備等支出	522,408	793,111	△ 270,703
	施設整備等資金収支差額	△ 308,533	△ 190,566	△ 117,967
その他の活動収支	収入 その他の活動収入	1,938,437	2,701,972	△ 763,535
	支出 その他の活動支出	1,959,217	2,728,683	△ 769,466
	その他の活動資金収支差額	△ 20,780	△ 26,711	5,931
予備費		53,500	0	53,500
当期資金収支差額		△ 290,369	△ 55,303	△ 235,066
前期末支払資金残高		755,059	810,362	△ 55,303
当期末支払資金残高		464,690	755,059	△ 290,369